



News Letter



「海の日記念行事 2026」への出展

2026年7月20日（月・祝）、東京国際クルーズターミナルにおいて、「海の日記念行事 2026」が開催され、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」（以下、SIP海洋課題）もブースを出展しました。

1995年の祝日法改正により翌年の1996年から「海の日」が祝日となり、今年で31回目を迎えました。「海の日記念行事」は、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日」である「海の日」に、「海洋についての国民、特に、次世代を担う青少年の理解と関心を一層深める」という趣旨のもと、総合海洋政策本部・国土交通省・日本財団の共催により開催されました。



東京国際クルーズターミナル全景

SIP海洋課題としては今回が初参加となりましたが、ブースでは、パネル展示や動画上映、パンフレットやNews Letterにより最新の活動を紹介するとともに、海洋ドローン「しんりゅう 6000」の模型や海底設置型観測装置「江戸っ子1号」の模型を展示しました。また、2026年1月の採鉱機器接続試験航海で南鳥島沖水深5600mの海底から採取したレアアース泥も展示しました。



主催者による「海の日記念行事 2026」ポスター

記念行事開会に先立ち、主催者である総合海洋政策本部および国土交通省より金子恭之国土交通大臣とあかま二郎内閣府特命担当大臣（海洋政策）がご視察にお越しになり、石井プログラムディレクターより展示内容と活動内容についてご説明し、種々意見交換されました。さらに、開会後には、山田吉彦参議院議員や赤池誠章前参議院議員にもご来場いただき、SIP海洋課題の活動内容についてご理解を深めていただきました。また、内閣府総合海洋政策推進事務局舟本事務局長や文部科学省研究振興局海洋地球課三宅課長にもお越しいただきました。

（＊肩書は、「海の日記念行事」開催時点のもの）



あかま二郎内閣府特命担当大臣（海洋政策）（左）
金子恭之国土交通大臣（右）
石井プログラムディレクター（PD）（中央）

当日は、約 300 名の来場者がありました。多くの学校で夏休みに入った時期と重なったこともあり、その多くは親子連れの方々と、展示された「しんりゅう6000」の模型に興味津々に眺め、多くの質問が寄せられました。中には高校生や大学生もいて、より専門的なことを訊かれる一幕もありました。また、多くの親御さんからも「南鳥島のレアアースに関する多くの報道に接し、とても興味を持っていた。実際の現場作業の様子の一端をうかがうことができ、来てよかった。」との感想をいただき、本記念行事の「海洋についての国民、特に、次世代を担う青少年の理解と関心を一層深める」との趣旨に貢献できたとの手応えを感じました。

SIP 海洋課題では、これからもこのような機会をとらえ、より多くの方々に海洋開発への関心を持っていただくよう努めてゆく所存です。



赤池 誠章 前参議院議員（写真中央）



ブースにて石井 PD よりレクチャーを受ける、あかま二郎内閣府特命担当大臣と金子恭之国土交通大臣



山田 吉彦 参議院議員（右から2人目）



文部科学省 研究振興局
海洋地球課 三宅課長



ミス日本「海の日」も来場。手前は、海洋ドローン「しんりゅう6000」の模型



レアアース泥サンプル



海底設置型観測装置「江戸っ子1号」のミニチュア模型

